

研究課題名	粘液型肺腺癌(mucinous adenocarcinoma)におけるKRAS 遺伝子変異、NRG1 遺伝子転座発現の臨床的背景と意義および circle RNA を用いた術前診断の探索
研究責任者名	原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究センター 腫瘍外科 教授 岡田 守人
研究期間	2019年 3月12日(倫理委員会承認後)～ 2022年12月31日
対象者	1997年1月から2018年12月の間に、広島大学病院呼吸器外科で原発性肺腺癌、特に粘液型肺腺癌に対して手術による治療を受けられた患者。
意義・目的	肺腺癌の中で特殊なタイプである粘液型腺癌では特徴的な遺伝子の変化がみられやすいことが分かっています。この遺伝子の変化は将来的な遺伝子治療の対象として有力視されていますが、頻度が低いためまだ不明な点も多く残されています。また近年臨床で使用されている癌免疫療法の治療効果に関わり得るたんぱく質の発現が、どのくらいみられるかはほとんど調べられていません。 この研究では、この遺伝子の変化やたんぱく質の発現を伴いやすい画像検査や病理検査での特徴や、遺伝子の変化やたんぱく質発現自体が肺癌の悪性度にどう影響しているか調べることを目的にしています。
方法	この研究は日本、スペイン、アメリカでの共同研究で解析や検査はスペインで行われます。広島大学からは、診療録(カルテ)情報と手術で切除された標本を調査に用います。用いる内容は年齢、性別、手術の種類、腫瘍の部位、病期、顕微鏡検査での腫瘍の特徴、検討対象となる遺伝子形態の有無です。(個人を特定可能な情報は解析に用いません)
共同研究機関	Institute of Oncology Rosell ,Quiron-Dexeus University Hospital (スペイン) Quiron-Dexeus University Hospital (スペイン) Institute for Health Science Research Germans Trias i Pujol (スペイン) Memorial Sloan Kettering Cancer Center and Weill Cornell Medical College (アメリカ)
試料・情報の管理責任者	Institute of Oncology Rosell, Quiron-Dexeus University Hospital Director Dr. Rafael Rosell Institute for Health Science Research Germans Trias i Pujol Director Dr. Maria Rosa Sarrias Quiron-Dexeus University Hospital Director Dr. Carlos Pedraz-Valdunciel Memorial Sloan Kettering Cancer Center and Weill Cornell Medical College Director Dr.Alexander Drilon 原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究センター 腫瘍外科 教授 岡田 守人

**個人情報保護について**

調査内容につきましては、個人情報保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

**問合せ・苦情等の窓口**

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5866

広島大学病院呼吸器外科 呼吸器外科 宮田 義浩

研究機関：広島大学